







# 2022年度 前期 漢検 漢字文化研究所 連続講座

第9弾

聴講料(入館料込み)  
一般 各回 1,500円  
学生 各回 1,000円  
年パスをお持ちの方  
一般 各回 800円  
学生 各回 600円

## 漢字と暮らし今昔

奈良時代の木簡と万葉集から時代を追って現代まで、出土資料と文献資料の双方に目を配って、日本でのこれまでの漢字文化をたどります。

開講日	テーマ
 4/24 (日)	<b>漢字文化の座標</b> 日本人が中国から漢字を受容し、それを使いこなして高度な文化を発展させてきた筋道を、時間と空間の面から考えます。 漢字文化研究所所長 阿辻 哲次
 5/14 (土)	<b>史的文字データベースで漢字を楽しもう</b> 皆様のお手元のスマホで、漢字二千年の歴史を楽しんでいただけます。その裏話や、途中での発見、楽しみ方をご紹介しますと思います。 奈良文化財研究所主任研究員 馬場 基
 6/11 (土)	<b>漢字で書かれた『万葉集』</b> 歌がうつくしい平仮名で書かれるのは、平安時代からです。万葉集は漢字だけを巧みに使って書かれました。その巧みさについて考えます。 人間環境大学教授 花井 しおり
 7/23 (土)	<b>漢字から仮名へ -「えびフライ定食」の謎!?-</b> 「えびフライ定食」という言葉。三つの字種と語種を交える複雑さを生み出すに至った経緯について考えます。 東京女子大学現代教養学部教授 山本 真吾
 8/27 (土)	<b>節用集 一時空を超える文化の方舟一</b> 漢字を引く辞書「節用集」は、漢字の方舟といえましょう。江戸時代に大発展した様子を御一緒に見てまいりましょう。 岐阜大学教育学部教授 佐藤 貴裕
 9/10 (土)	<b>令和の時代の漢字辞書</b> 漢字の辞書には、どのような情報が載っていると便利でしょうか? 新しい時代に必要とされる辞書の姿を探ります。 辞書編集者 円満字 二郎

時間は各回とも 14:00~15:30

ご自身の都合に合わせて、ご興味のあるテーマのみの受講ができます。

※新型コロナウイルス感染予防の観点から、受講者の定員を30名(先着順)とします。  
 受講のお申し込みは開講日の1週間前からお電話にて受け付けます。  
 ※当日の講座の様子を録画し、後日動画配信サイトにて配信します(有料)。



漢検 漢字博物館・図書館  
Japan Kanji Museum & Library

申込み・問い合わせ先 : 電話:075-757-8686  
www.kanjimuseum.kyoto